

本年度学校教育の努力点とその推進計画

(1) 主題

主体的に学び続ける牧野っ子！
～一人一人の選択・決定を尊重して～

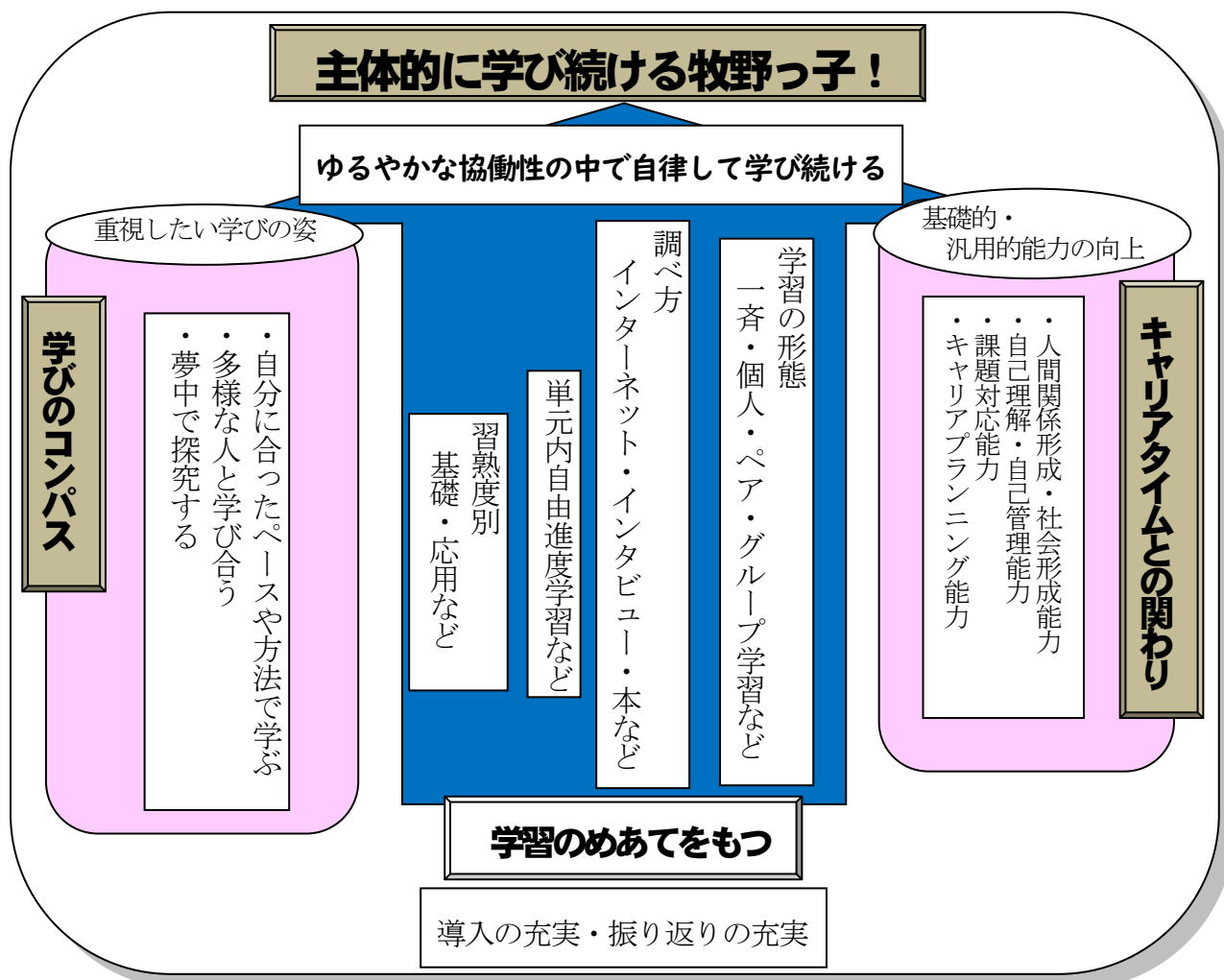
(2) 主題について

昨年度、協働的な学びを重視して実践を行ったところ、「一人で学びたい時もある」という児童が少なからずいることが把握できた。そのため、児童が自分で学び方を選択することができるように授業改善を図ることが重要であると考えます。また、本校は通常学級に加え、知的・情緒・肢体と特別支援学級が3学級と通級指導教室も2学級あり、児童の特性も多様である。このような実態に応じて、一人一人が学び方を選択し、決定することができる授業を行うことが必要である。

本市では、令和5年に「ナゴヤ学びのコンパス」が公表され、重視したい学びの姿として「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」が取り上げられている。一人一人が学習のめあてに向かうために、学習の形態や調べ方の違いなど、学びの多様化を認めていくことが重要となる。

しかし、全てを児童に任せるのではなく、どのような学び方があるのかを知らせることや、児童自身が学習のめあてをもてるようにするための手立てを教師が設定していく必要がある。その上で、児童が学習のめあてを達成するためには何が必要なのか、どのように学ぶとよいのかを自分で考えることができるようにしたい。このような学習を行うことで、本年度から本格実施される「キャリアタイム」で育成すべき力として挙げられる「基礎的・汎用的能力」の向上も期待できる。

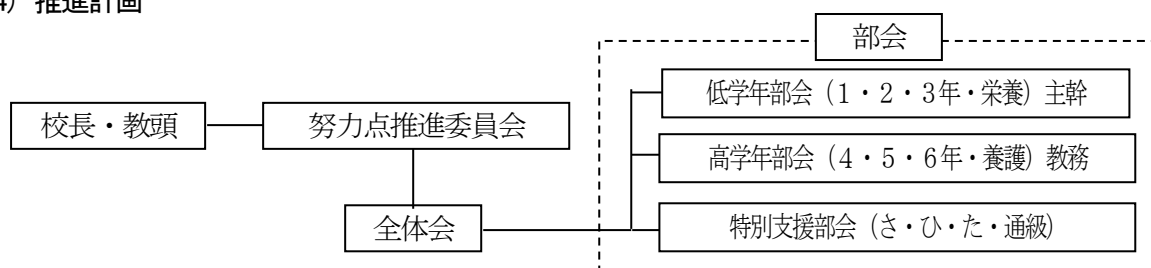
以上のことから、自分に合った学習を自分で選択・決定できるような授業を意識して行っていくことで、本校が目指す「主体的に学び続ける牧野っ子」を育成していきたいと考える。



(3) 重点目標とその進め方

主題に迫るために「ナゴヤ学びのコンパス」を意識した授業を行っていく。そのためには、一人一人に何を学びたいのか、何を学ぶ必要があるのかを把握させる必要がある。それが学習のめあてとなり、次に、どのようにして学ぶかを考えていく。教師が、それまでに様々な学び方を示しておくことが重要となり、児童はめあてに向かって各々の特性や学習進度に合わせて方法を選んだり、工夫したりする。そして、児童に学習を振り返る時間を設けることで、学習内容の確実な定着を目指すとともに次の学習のめあてをもたせることにもつなげていく。子ども自身が自分に合ったペースや方法で学ぶことができるようにすることで、子ども自身が学習を深め、広げていくことができる経験を通して、「主体的に学び続ける牧野っ子！」の育成を目指していく。

(4) 推進計画



- ・ 部会では、低・高・特別支援部会の3つに分かれ、授業実践（一人一実践）の事前検討会（P）→授業研究（D）→事後検討会（C）の事後評価を行い、授業改善（A）へとつなげていく。
- ・ 事後検討会に向け、部会ごとに役割分担をしておく。
 (例) ①発問・手だて ②子どもの変容（抽出子ども） ③記録写真 ④計時
- ・ 実践する教科は問わない。

	会 議 名	実 施 日	内 容
1 学 期	全体会①	4/14 (月)	・年間推進計画全体提案
	努力点部会①	4/24 (木)	・育てたい子ども像・授業実践の計画
	授業研究 前期	随時 (5～7月)	・低・高学年部会で事前・事後検討会を行う。
2 学 期	努力点部会②	9/1 (月)	・進捗状況の報告・意見交流
	授業研究 後期	随時 (9～12月)	・低・高学年部会で事前・事後検討会を行う。
	全体会②	10/6 (月)	・口頭による中間報告 ・まとめについて
3 学 期	努力点部会③	1/8 (木)	・研究集録原稿の検討
	全体会③	1/19 (月)	・最終報告
	推進委員会	2/5 (木)	・次年度の計画

※ 取り組みを保護者や地域に知らせるため、保護者の授業参観において、努力点に関する授業を行う。また、授業実践の内容やその成果については、学年だよりや学級懇談会でも報告する。